

地域社会における子育て・教育環境

—小学生母子の地域とのかかわりと教育に関するアンケート調査より—

研究開発室 的場 康子

目次

- 1. はじめに…………… 5
- 2. 地域社会における教育施設等の利用状況・評価…………… 6
- 3. 地域社会の子育て・教育環境に対する意識…………… 9
- 4. 地域社会の子育て・教育環境整備のために必要なこと…………… 14

要旨

- ① 子ども・子育て支援対策の一環として、「地域の子育て力」の向上が求められている。実際に子育てをしている母親は、地域社会における教育施設等をどのように評価し、地域ぐるみで子育て・教育をする環境整備の充実のために何を期待しているのだろうか。本稿では、小学生の母親を対象に実施したアンケート調査を踏まえ、地域ぐるみで子育て・教育に取り組む環境整備の充実について考える。
- ② 地域社会における教育施設等の小学生の利用状況をみると、「図書館で本を借りる」は「月に1回以上」が59.0%（「年に数回」は32.4%）を占めている。その他の施設で月に1回以上遊んだりイベントに参加する割合は、「児童館」は15.8%（同37.6%）、「スポーツ施設」は15.6%（同48.4%）、「公民館」は8.5%（同54.7%）、「博物館」は2.6%（同45.3%）、「美術館」は1.3%（同30.9%）であり利用頻度は低い。しかし、いずれの施設も自分の子どもに「内容によって利用・参加させたい」という回答が4～6割であり、利用意向は低くない。
- ③ 回答者が住んでいる地域の子育て・教育環境に対する現状認識についてみると、地域の人間関係や治安について肯定的な評価をしている人が多い。他方、望んでいることとしては、地域社会の安全性確保をはじめ、図書館、公民館、スポーツ施設、児童館等の教育施設におけるイベントの充実や利用のしやすさを期待している人が多い。
- ④ 小学生の母親が地域社会の子育て・教育環境の整備のために重要であると考えていることは、「地域社会の安全性や人々とのつながり」とともに、「各種教育施設やクラブ活動の展開」や「放課後子ども教室」並びに「放課後児童クラブ」の充実であることがわかった。

キーワード：地域社会、子育て支援、教育施設

1. はじめに

(1) 調査の背景

2010年1月、政府は「子ども・子育てビジョン～子どもの笑顔があふれる社会のために」を閣議決定した。その冒頭は「子どもを大切に作る社会をつくりたい」で始まり、「チルドレン・ファースト」のための具体的施策を公表した。同ビジョンでは「基本的な考え方」の一つに「社会全体で子育てを支える」を掲げ、「地域の子育て力」の向上を目指している。

地域社会における子育て機能の向上が注目される背景として、まず、核家族化、働く母親の増加等による地域の人々とのつながりの希薄化がある。子育て家庭の孤立化を防ぎ、子育てがしやすい環境を目指す必要がある。また、子どもは家庭や学校のみで育つものではない。社会性等、地域社会の様々な人々との交流によって習得すべきものがあり、地域社会で子どもを育てるという意識の醸成が求められている。

これまでも、地域社会における子育て支援の取組として、地域子育て支援拠点^{*1}の設置や、地域ぐるみで子どもの教育に取り組む環境の整備^{*2}等が実施されてきたが、今回のビジョンでは、さらにそれらの充実を図ることを目指している。

このように「地域の子育て力」向上が求められている中で、実際に子育てをしている親は、地域社会における教育施設等をどのように評価し、「地域の子育て力」向上のために何を期待しているのだろうか。地域ぐるみで子育てをする環境整備の充実のためには、当事者である親の意識を踏まえることも必要である。

このような背景により、本稿では、特に小学生の健全育成の観点から、小学生の母親を対象に実施した「小学生母子の地域とのかかわりと教育に関するアンケート調査」結果に基づき、地域社会における教育施設等に対する評価や地域社会に対する意識等を踏まえ、地域ぐるみで子育て・教育に取り組む環境整備の充実について考える。

(2) アンケート調査の概要と基本属性

アンケート調査の概要は図表1の通りである。

図表1 アンケート調査概要

調査時期	2009年9月
調査対象	全国の小学生の子どもを持つ母親（当研究所生活調査モニターより抽出）
調査方法	郵送調査法
サンプル数	配布数：800名　有効回収数：760名（有効回収率：95.0%）

回答者の平均年齢は39.7歳である。子どもの学年は1年生が5.7%、以下2年生13.2%、3年生17.2%、4年生22.0%、5年生22.1%、6年生19.1%、無回答0.8%で

ある(図表省略)。回答者の就労状況は無職が42.2%、有職が57.4% (パート・アルバイト37.4%、正社員・正職員8.7%、契約社員・嘱託社員4.7%、自営業3.4%、派遣社員2.0%、経営者・役員およびその他1.2%)、無回答が0.4%である。

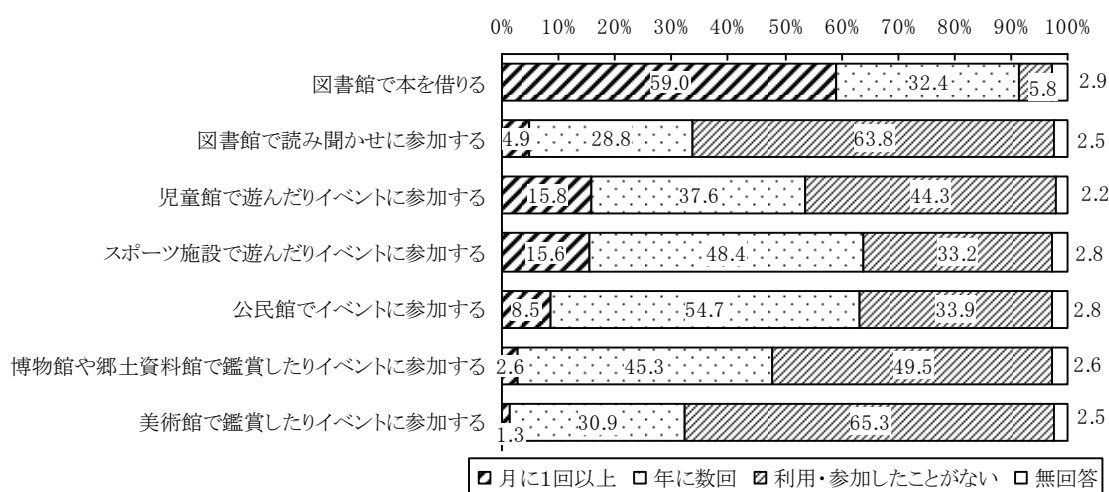
2. 地域社会における教育施設等の利用状況・評価

(1) 地域社会における教育施設等の利用頻度

現在、地域社会ごとに様々な教育施設等がある。これらの施設に対する小学生の利用状況と利用意向をみることで、地域社会の教育施設等に対する評価をうかがうことができる。そこではじめに、身近な地域社会(おおよそ小学校区よりも広い中学校区等、子どもが気軽に足を運べる範囲)にある教育施設等の利用状況についてみる。

図表2は、身近な地域社会にある図書館、児童館、スポーツ施設、公民館、博物館、美術館の小学生の利用頻度をみたものである。以下、施設別に結果をみていく。

図表2 地域社会における教育施設等の利用頻度



1) 図書館

「図書館で本を借りる」(以下「図書館」)については、「月に1回以上」という回答割合が59.0%を占めている。「利用・参加したことがない」が5.8%となっており、ほとんどの人が利用していることがわかる。他方、「図書館で読み聞かせに参加する」(以下「図書館の読み聞かせ」)に対しては63.8%が「利用・参加したことがない」と回答している。

図書館法に基づいて地方公共団体等が設置した「図書館」は、全国に3,165施設である(文部科学省「社会教育調査」2008年)。以下で述べる児童館や公民館に比べて数は少ないが利用率は高く、多くの小学生にとって身近な教育施設であることがわかる。

2) 児童館・スポーツ施設

図書館に次いで、「月に1回以上」の割合が高かったのは児童館とスポーツ施設である。「児童館で遊んだりイベントに参加する」（以下「児童館」）と「スポーツ施設で遊んだりイベントに参加する」（以下「スポーツ施設」）に対し、「月に1回以上」の回答割合がそれぞれ15.8%、15.6%となっている。

児童館は、児童福祉法に基づいて自治体が設置するもので、全国に4,700施設ある（厚生労働省「社会福祉施設等調査報告」2007年）。スポーツ施設は、体育館、水泳プール運動場等の総称であり、地方公共団体が設置した社会体育施設は全国に47,925施設がある（前述の文部科学省資料）。ちなみに民間体育施設は17,323施設である。これらの施設は図書館に比べ施設数は多いが、利用状況は限定的なようである。

3) 公民館

続いては公民館である。「公民館でイベントに参加する」（以下「公民館」）に対し、「月に1回以上」の回答割合は8.5%であるが、54.7%が「年に数回」と回答しており、「利用・参加したことがない」は33.9%である。児童館やスポーツ施設よりも利用頻度は低いが、概ねこれらと同程度に利用されているといえる。

公民館は社会教育法に基づいて主に自治体が設置するもので、全国に16,566施設ある（前述の文部科学省資料）。公民館は、施設数で見ると多くの人にとって身近にある施設のようにだが、小学生の利用状況は限られているといえる。

4) 博物館・美術館

「博物館や郷土資料館で鑑賞したりイベントに参加する」（以下「博物館」）と「美術館で鑑賞したりイベントに参加する」（以下「美術館」）は、「月に1日以上」がそれぞれ2.6%、1.3%であり、両者とも利用頻度は極めて少ない。ただし、「博物館」は「年に数回」が45.3%、「利用・参加したことがない」は49.5%であり、約半数は年に数回以上は利用していると回答している。「美術館」に比べ、「博物館」のほうが小学生に利用されているといえる。

博物館法に基づき自治体等が設置した博物館や美術館の施設数は、博物館4,345施設、美術館1,101施設である（前述の文部科学省資料）。他の施設に比べて美術館の利用が少ないのは、多くの人にとって身近な地域社会に美術館が存在しないためでもあるといえる。また、美術館に限らず、博物館についても、施設の特質上、頻繁に利用されるものでもなく、そこで実施される子ども向けのイベント開催も他の施設に比べ限定的であることにもよると思われる。

以上が、地域社会における教育施設等の小学生の利用頻度である。概して「月に1回以上」の高頻度利用者は少なく、「年に数回」程度以下が多かったが、このように利用頻度が低いのは、これらの施設に興味がないためであろうか。次に、低頻度利用者の教育施設等に対する利用意向をみる。

(2) 地域社会における教育施設等の利用意向

図表3は、図表2の各項目について、「年に数回」および「利用・参加したことがない」と回答した人に、小学生の母親からみた自分の子どもの利用意向をたずねた結果である。以下、施設別にみていく。

図表3 地域社会における教育施設等の利用意向

(単位：%)

	n	複数回答				単数回答	単数回答
		あ 近 れ ぐ に	あ 時 れ 間 が	よ 内 っ て 容 に	あ れ ば サ ー ビ ス が あ	利 用 ・ 参 加 さ せ る 意 向 は な い	か わ か ら な い
		利用・参加させたい					そ の よ う な 施 設 ・ サ ー ビ ス が あ る
図書館で本を借りる	290	46.6	50.3	9.3	2.8	0.7	0.3
図書館で読み聞かせに参加する	704	18.8	32.7	40.6	4.5	11.4	2.3
児童館で遊んだりイベントに参加する	623	23.0	20.9	44.0	10.4	4.5	9.1
公民館でイベントに参加する	674	14.1	25.1	57.7	9.9	2.2	4.0
スポーツ施設で遊んだりイベントに参加する	620	31.9	26.1	39.0	12.7	1.5	7.9
博物館や郷土資料館で鑑賞したりイベントに参加する	720	33.1	20.1	43.1	13.3	1.8	7.4
美術館で鑑賞したりイベントに参加する	731	34.7	16.1	37.6	13.8	2.9	10.5

注：図表2において、「年に数回」および「利用・参加したことがない」と回答した人が対象。

1) 図書館

「図書館」については、他に比べ高い利用頻度が示され、むしろ利用頻度が低い小学生の方が少数派であった。母親からみた子どもの利用意向をみると、「利用・参加させる意向はない」や「そのような施設・サービスがあるかわからない」は極めて少なく、「時間があれば」ないし「近くにあれば」、「利用・参加させたい」の回答割合がそれぞれ5割前後である。

これに対し、「図書館の読み聞かせ」は利用頻度が低いものであったが、「利用・参加させる意向はない」は11.4%、「そのような施設・サービスがあるかわからない」は2.3%にとどまり、「内容によって利用・参加させたい」が40.6%を占めている。

2) 児童館・公民館

「児童館」と「公民館」については、「そのような施設・サービスがあるかわからない」が「児童館」9.1%、「公民館」4.0%であり、「児童館」で若干高めであるが、「利用・参加させる意向はない」への回答割合はそれぞれ4.5%、2.2%と低く、「内容によって利用・参加させたい」がそれぞれ44.0%、57.7%を占めている。

3) スポーツ施設・博物館・美術館

「スポーツ施設」、「博物館」、「美術館」については、「そのような施設・サービスが

あるかわからない」が「美術館」で10.5%と他の施設に比べて高いが、「利用・参加させる意向はない」はいずれも2%前後と極めて低く、「内容によって利用参加させたい」と「近くにあれば利用・参加させたい」の回答割合が、いずれも約3～4割を占めている。

以上、地域社会における教育施設等の利用状況についてみてきた。施設によって利用頻度は異なるが、概して、あまり利用頻度が高くない施設であっても利用意向がない、あるいは認知度が低いというわけではなく、内容によって、または近くにあれば、子どもに利用させたいという人が多いことがわかる。

次に、地域社会における教育施設等を含めた子育て・教育環境に対して、小学生の母親がどのような意識を持っているか、その現状認識と期待についてみる。

3. 地域社会の子育て・教育環境に対する意識

(1) 子育て・教育環境に対する現状認識

1) 子育て・教育環境の様々な場面についてどのように思っているか

まず、回答者が住んでいる地域社会の子育て・教育環境に対する現状認識をみる。

図表4は、地域社会における子育て・教育環境の様々な場面について、4段階でたずねた結果である。肯定的な回答（「とてもそう思う」と「まあそう思う」）が多かった項目の上位3位は、「親同士のつながりや近所づきあいがある」（73.4%）、「信頼できる住民が多い」（69.3%）と「治安がよい」（67.5%）であり、地域の人間関係や治安について肯定的な評価をしている人が多いことがわかる。

他方、「放課後子ども教室が充実している」（19.7%）、「児童館で子どもが参加しやすいイベント等が充実している」（33.5%）、「図書館や公民館、スポーツ施設等で子どもが参加しやすいようなイベント等が充実している」（33.5%）、「地域におけるスポーツや芸術等のクラブ活動が充実している」（36.7%）への肯定的な回答の割合は低い。

前項でみたように、地域社会における教育施設等の利用状況は概してあまり積極的でなかったが、その背景には、こうした地域社会の教育環境に対する現状認識があると思われる。

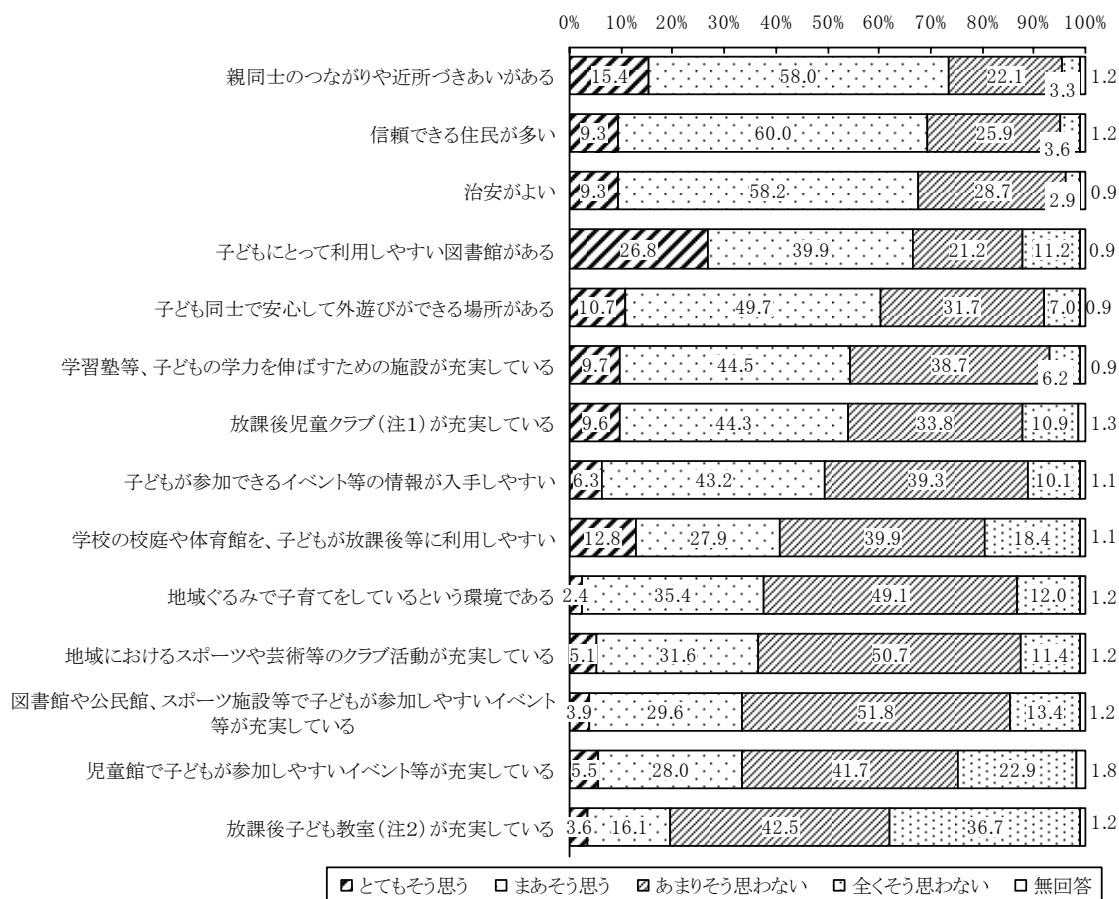
ちなみに、母親の就業の有無別に分析をおこなったが、いずれの項目も回答状況に有意な差はみられなかった。子育て・教育環境についての現状認識は、母親の就労状況によって大きな違いはないようだ。

2) 「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」と関連する意識

図表4の中に「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」という項目がある。これは回答者が住んでいる地域が「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」か否かをストレートにたずねたものである。その肯定的な回答の割合は37.8%であった。むしろ「あまりそう思わない」が49.1%を占めており、「全くそう思わない」

の12.0%と合わせると、半数以上が否定的な回答である。多くの小学生の母親の現状認識では、住んでいる地域が「地域ぐるみで子育てをしている環境」ではないと感じていることがわかる。

図表4 地域社会の子育て・教育環境についての現状認識



注1:児童福祉法第6条の2第2項の規定に基づく放課後児童健全育成事業であり、共働き家庭の児童(小学校おおむね1~3年生)を対象として、放課後等に適切な遊びや生活の場を提供するもの(「第26回社会保障審議会少子化対策特別部会資料」2009年9月1日)。

注2:すべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を推進する放課後子ども教室推進事業(注1資料に同じ)。

他方、「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」との認識は、地域社会の子育て・教育環境における様々な場面に對し、どのような関連があるのだろうか。そこで「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」という項目と、その他の現状認識に関する項目との相関係数をみることで、これを類推したい。

「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」と比較的強い関係がみられたのは、「信頼できる住民が多い」「親同士のつながりや近所づきあいがある」および「子ども同士で安心して外遊びができる場所がある」といった地域社会の人間関係や安全

性に関する項目であった(図表5)。また、「放課後子ども教室が充実している」や「地域におけるスポーツや芸術等のクラブ活動が充実している」といった、いわゆる子どもの人間形成にかかわる項目も「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」と比較的強い関係があることがうかがえる。

反対に「子どもにとって利用しやすい図書館がある」や「学習塾等、子どもの学力を伸ばすための施設が充実している」は相関係数が相対的に低い。多くの人々が「地域ぐるみで子育てをしているという環境」として思い浮かべるものは、すでに多くの利用がある図書館や直接的な教育にかかわる学習塾の存在よりも、人とのつながりや子どもの人間形成が期待できる仕組みがいかに地域に備わっているかということのようだ。

以上が、地域社会における子育て・教育環境についての現状認識である。次は、小学生の母親が、子どもの健全育成のために、地域社会に対しどのようなことを期待しているかをみる。

図表5 「地域ぐるみで子育てをしているという環境である」と各種地域の子育て・教育環境に関する現状認識との相関係数

	地域ぐるみで子育てをしているという環境である
信頼できる住民が多い	.422***
放課後子ども教室が充実している	.338***
親同士のつながりや近所づきあいがある	.336***
子ども同士で安心して外遊びができる場所がある	.321***
地域におけるスポーツや芸術等のクラブ活動が充実している	.316***
治安がよい	.310***
放課後児童クラブが充実している	.303***
図書館や公民館、スポーツ施設等で子どもが参加しやすいイベント等が充実している	.295***
子どもが参加できるイベント等の情報が入手しやすい	.263***
児童館で子どもが参加しやすいイベント等が充実している	.249***
学校の校庭や体育館を、子どもが放課後等に利用しやすい	.234***
学習塾等、子どもの学力を伸ばすための施設が充実している	.183***
子どもにとって利用しやすい図書館がある	.115**

注1:現状認識についての各項目について「とてもそう思う」に3点、「まあそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に1点、「全くそう思わない」に0点を付与して得点化した数値による相関係数である。

注2:**:p<0.01、***:p<0.001

(2)子育て・教育環境についての要望

1)子育て・教育環境の様々な場面について何をどの程度望んでいるか

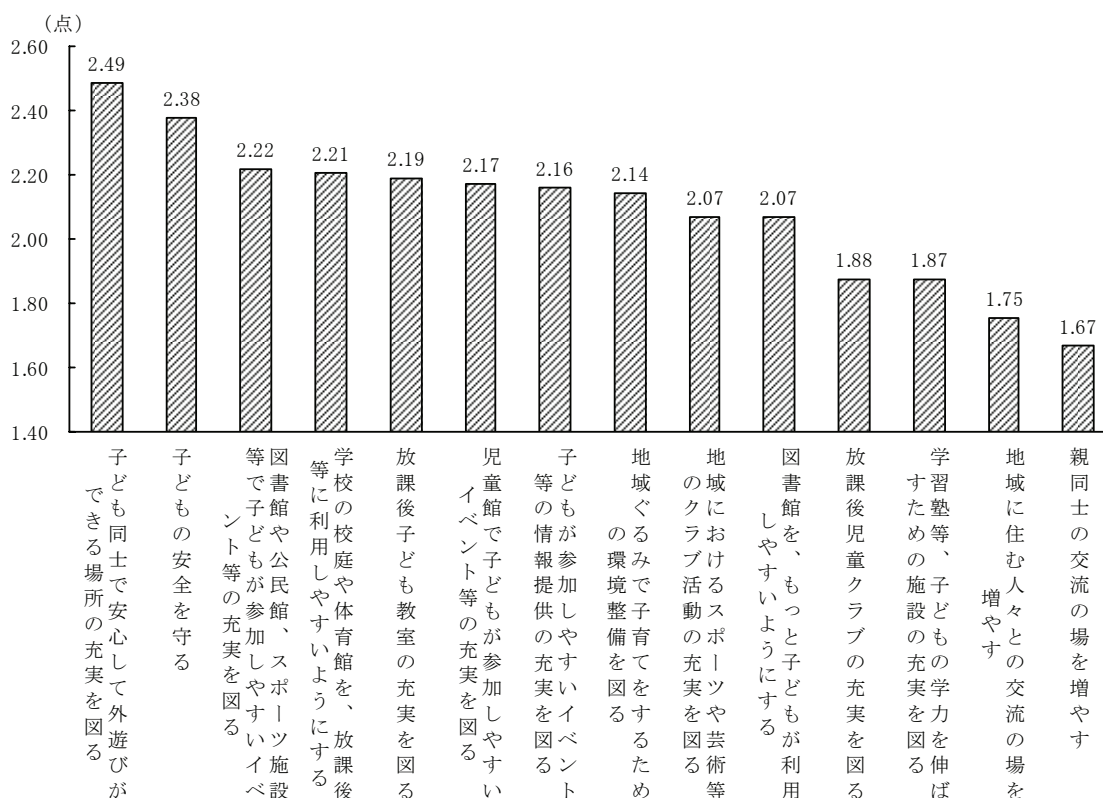
本稿の冒頭で「地域の子育て力」向上が政策課題として掲げられている旨を示したが、実際に小学生の母親は、子どもが健やかに成長するため、地域社会における子育て・教育環境の様々な場面について、具体的に何をどの程度望んでいるのだろうか。

各項目の回答を得点化して示したものが図表6である。数値が高いほうが要望が強い

いことを示している。

上位2位は、「子ども同士で安心して外遊びができる場所の充実を図る」(以下「安心な外遊びの場の充実」)(2.49点)と「子どもの安全を守る」(2.38点)である。多くの人が、地域社会の安全性確保を強く望んでいることがわかる。第3位の「図書館や公民館、スポーツ施設等で子どもが参加しやすいイベント等の充実を図る」から、第6位の「児童館で子どもが参加しやすいイベント等の充実を図る」(以下「児童館でのイベント等の充実」)までの項目をみると、各種教育施設におけるイベントの充実や利用のしやすさを多くの人が期待していることがわかる。

図表6 子育て・教育環境の様々な場面・状況についての要望の強さ



注: 数値は「現状より強く望む」に3点、「現状よりやや望む」に2点、「現状程度でよい」に1点を付与して得点化した平均値である。

反対に、「親同士の交流の場を増やす」(以下「親同士の交流を増やす」)(1.67点)、「地域に住む人々との交流の場を増やす」(1.75点)、「学習塾等、子どもの学力を伸ばすための施設の充実を図る」(以下「学力を伸ばす施設の充実」)(1.87点)、「放課後児童クラブの充実を図る」(以下「放課後児童クラブの充実」)(1.88点)等は、相対的に得点が低い。これは、前述のように人間関係については地域社会に対する現状認識ですでに肯定的な評価をしている人が多かったこと、また、学習塾等の学力を伸ばすための施設については「地域ぐるみで子育てをしているという環境」を構成する要素と

してあまり意識されていなかったことと関連があるように思われる。また、放課後児童クラブは、主に両親が働いている家庭対象の施設であり、ニーズ保有者が限定的であるため、全体的には要望度があまり高くなかったのであろう。

ただし、母親の就業状況別にみると、「安心な外遊びの場の充実」を除き、すべての項目で有職の方が要望度得点が高かった（図表省略）。とりわけ、「放課後児童クラブの充実」「学力を伸ばす施設の充実」「児童館でのイベント等の充実」「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」「親同士の交流を増やす」については統計的に有意な差がみられた（一元配置の分散分析で「放課後児童クラブの充実」のみ $p < 0.001$ 、それ以外はすべて $p < 0.05$ ）。有職の母親は、無職の母親よりも、地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図ることを強く要望している。また、子どもの居場所としての放課後児童クラブや児童館の他に、親同士の交流や学力面での支援も地域社会に期待していることがわかる。

2)「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」ということはどのようなことか

前述の現状認識と同様、「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」という項目により、その要望度をたずねている。その結果、得点は2.14点であった。これは全体からみれば中位に位置するが、2点を上回っていることから、現状よりも望むと回答した人が多いことを示している。

ここでは、「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」ことは、具体的にどのようなことと関係があるかを考えたい。現状認識の場合と同様に、「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」に対する要望度と、図表6における様々な子育て・教育環境に対する要望度との相関係数をみることで両者の関係を類推する。

「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」と比較的強い関連がみられたのは、「地域に住む人々との交流の場を増やす」、「親同士の交流を増やす」といった人間関係に関する項目である（図表7）。また、「放課後児童クラブの充実」「放課後子ども教室の充実を図る」といった、現在政府が進めている取組に対しても、多くの人々が「地域ぐるみで子育てをするための環境整備」と強く関連付けて認識していることがわかる。特に、「放課後児童クラブ」については、全体で見ると要望度は相対的に低いものであったが、「地域ぐるみで子育てをするための環境整備」の構成要素としては重要な位置を占めるものにとらえられているようである。さらに、「地域におけるスポーツや芸術等のクラブ活動の充実を図る」との関連も相対的に高い。

このようなことから、「地域ぐるみで子育てをするための環境整備」には、地域社会の人間関係の構築や、「放課後児童クラブ」、「放課後子ども教室」、地域におけるクラブ活動等といった取組が強く関連しているといえる。

図表7 「地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る」の要望度と各種子育て・教育環境に関する項目についての要望度との相関係数

	地域ぐるみで子育てをするための環境整備を図る
地域に住む人々との交流の場を増やす	.503***
親同士の交流の場を増やす	.487***
放課後児童クラブの充実を図る	.478***
子どもの安全を守る	.458***
放課後子ども教室の充実を図る	.451***
地域におけるスポーツや芸術等のクラブ活動の充実を図る	.409***
子ども同士で安心して外遊びができる場所の充実を図る	.390***
子どもが参加しやすいイベント等の情報提供の充実を図る	.331***
学習塾等、子どもの学力を伸ばすための施設の充実を図る	.328***
児童館で子どもが参加しやすいイベント等の充実を図る	.307***
図書館や公民館、スポーツ施設等で子どもが参加しやすいイベント等の充実を図る	.298***
学校の校庭や体育館を、放課後等に利用しやすいようにする	.259***
図書館を、もっと子どもが利用しやすいようにする	.193***

注1: 図表6の数値による相関係数である。

注2: ***: $p < 0.001$

4. 地域社会の子育て・教育環境整備のために必要なこと

以上、アンケート調査結果より、地域社会における教育施設等の小学生の利用状況、および小学生の母親の子育て・教育環境に対する意識をみてきた。最後にこれらを踏まえ、地域ぐるみで子育て・教育に取り組む環境整備の充実についての考察を行う。

小学生の母親は「地域社会の子育て・教育環境」について、どのようにとらえているのか。現在住んでいる地域社会にある教育施設等の小学生の利用頻度は、施設によって異なるもののあまり高くはない。また、小学生の母親の子育て・教育環境に対する現状認識をみると、人間関係や治安に満足している人は多いが、子どもが利用しやすい児童館や図書館、公民館、スポーツ施設等の教育施設等や、スポーツや芸術等のクラブ活動が充実していると思っている人は少ないことがわかった(図表4)。

しかしながら、子どもが児童館や公民館、スポーツ施設をあまり利用していない人に対し、その利用意向をみたところ、「内容によって利用・参加させたい」と思っている人が多数を占めている(図表3)。また、こうした教育施設等やクラブ活動とともに、地域社会の安全性の確保や、現在政府が進めている「放課後子ども教室」や「放課後児童クラブ」に対しても、多くの人が期待していることが示された(図表6、図表7)。さらに、「地域ぐるみで子育てをしているという環境」との関連をみたところ、地域社会における人間関係に関する項目と強く関連している(図表5、図表7)。

このようなことから、地域社会の子育て・教育環境の整備のために何が重要であると小学生の母親が認識しているかを考えると、「地域社会の安全性や人々とのつながり」とともに、「各種教育施設やクラブ活動の展開」や「放課後子ども教室」ならびに

「放課後児童クラブ」の充実である。

「地域社会の安全性や人々とのつながり」については、現状に満足している人が多かったが、多くの人々が地域社会における子育ての重要な要素であると認識していることを改めて確認できた。

また「各種教育施設やクラブ活動」は、地域ぐるみで子育て・教育をする環境を整備するにあたり、まさに中心的な役割を担うものである。小学生の母親の間では有職の母親が多数を占めている現状（本調査では有職者が約6割）を考えると、地域社会で子どもが過ごせる場所となり得る図書館、児童館、公民館、博物館、美術館、スポーツ施設等の各種教育施設や、スポーツや芸術等のクラブ活動が充実されることは重要な意味を持つ。そのためには、このような施設や活動を支える地域社会の様々な大人たちの参画が必要である。このことを通して、地域における人々のつながりが強まるとともに、これらの施設や活動等を利用して「放課後子ども教室」や「放課後児童クラブ」の活動も発展させることができる。さらに、子どもたちに目を向ける大人たちが増えることで、地域の安全性の確保も期待できる。

したがって、まずは人々が集う場として既存の教育施設等が有効活用されるような道を探ることが重要である。そのためには「内容によって」利用したいという人を利用に導くような工夫が求められる。例えば、最近の美術館・博物館の中には、子どもを対象とした鑑賞教室等のイベントを、地域のボランティアの参画により実施している施設もある（的場 2006）。このようにして地域ごとに「各種教育施設やクラブ活動の展開」が推進されることにより、地域ぐるみで子育て・教育環境の整備の底上げにつながるものと思われる。

（研究開発室 主任研究員）

【注釈】

- *1 子育て家庭等の育児不安に対する相談・指導や、親子が気軽に集うことのできる場を提供するもの。
- *2 地域住民の参画によって部活動の指導支援や通学路の安全指導等を行う「学校支援地域本部」等、地域住民を子どもの健全育成のために活用する取組がある。

【参考文献】

- ・ 的場康子, 2006, 「美術館・博物館の教育普及活動について—美術館・博物館に関するアンケート調査から—」『Life Design Report (2006年3-4月号)』.